



# 岩江中だより

第 18 号

発行日：平成27年 7月17日  
発行：三春町立岩江中学校  
電話：0247-62-8290  
FAX：0247-62-8380  
E-mail:school@iwae-jfks.ed.jp

学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

## 【通知票が新しくなります。～差し込み式で、3年間使用するファイルになります。～】

平成27年度の通知票は、右のような形になります。年度で1冊だった通知票を3年間使えるファイル形式にし、学びの「跡」を振り返り、今後の見通しをもちやすくするために、差し込み式のファイル形式にいたしました。3年間使える、比較的丈夫なファイルにいたしましたので、「学びの記録」・「進路情報」・「私にはこれがある」などどの資料としてご活用いただければと考えております。

なお、『通知票の見方』として、どんな点に留意してご覧いただければいいのかについても同封してあります。参考にいただき、子どもたちのがんばりをぜひ褒めてあげていただければと存じます。



## 【終業式の日！～節目の日子どもたちはすばらしい学びの跡を見せてくれました。～】

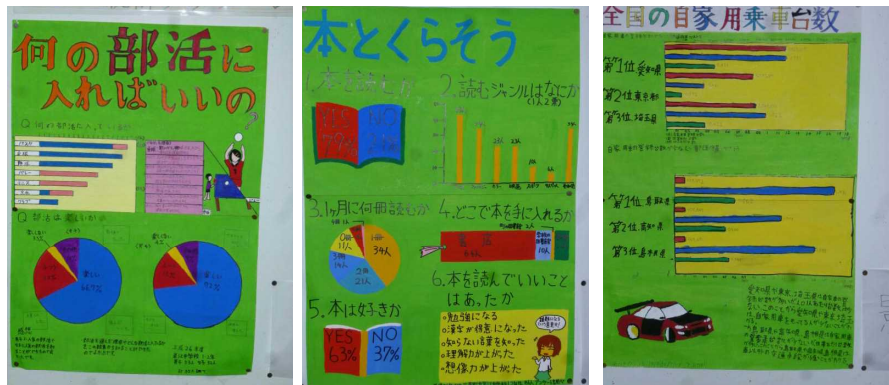
慌ただしい学期末こそ、心穏やかに、子どもたちのがんばりを見つけてあげなければと思い、校舎内外をつぶさに回って歩いています。

ふと目にとまったのが、「統計グラフコンテスト」出品用の作品でした。データ収集とその処理・分析が丁寧に行われ、「ああ、そうなんだ。」とうなずける作品となっていました。

次に感心したのは、1年生の朝の読書です。4月には席にじっと座っている生徒の方が多かった状況でしたが、ご覧ください。全員が「し〜ん〜ん。」として読書にいそんでいました。若干よその課題をやっている生徒もいましたが、

そして、トイレのスリッパ。17日8時22分の保健室脇のトイレのものです。きちんとそろえられ、そろえてくれた人の手の動きが見えるようです。4ヶ月でそれぞれの場所で、それぞれの願いに応じて、子どもたちはきちんと答えてくれています。

それがとてもうれしいです。



## 【終業式の日パート2！ ～こんな言葉を子どもたちと共有しました。～】

7月17日の午後に行われた終業式で、子どもたちと一緒に以下の内容について共有いたしました。全校生と教職員が一緒になってよりよい岩江中学校づくりに取り組んでいくための話題提起でもあります。保護者や地域のみなさまにもお伝えし、ご意見等をたまわれば幸いです。

### 平成27年度 三春町立岩江中学校 第1学期終業式式辞

平成27年度の第1学期が今日終了いたします。横断歩道で会った人には一人ひとり伝えましたが、ここにこうして整列しているすべてのみなさんに、改めて、「よくがんばりました。」という言葉を送ります。

みなさんの第1学期はどのようなものでしたでしょうか。『私にはこれがある』というものをどれくらい見つけられたでしょうか。一日も休まずに登校できた。人が見えてもいなくてもトイレのスリッパをそろえた。毎日花の水やりができた。いつも元気に心を込めたあいさつができた。だめなことはだめと言ってくれる大切な友達がいる。いつも笑顔を絶やさない。定期テストで学年トップに立った。辛いことから逃げなかった。友達がうれしいときに一緒に喜び、悲しいときには一緒に悲しんであげた。どれもこれも立派な『私にはこれがある』です。これからも、先生方と一緒に、一人ひとりの「私にはこれがある」を見つけていきましょう。

さて、第1学期の始業式を思い出してみると、まずみなさんにお話したことは、「命の大切さ」ということでした。3・11岩江中学校『命を見つめる日』の実践から、学校という公共の場では、自分の思いを大切にすると共に、他の人の思いも大切にしていきたいと思います。しかし、みなさんが先日実施したいじめアンケートの中には、「たたかれた。からかわれた。挑発された。」という記述がありました。ここにいるみなさんの中に、まだ完全に自他の命が大切にされていないと感じている人がいることは事実です。自分の気持ちを大切にすると同じくらい、他の人のことを大切にしたい生活というものを心がけていきましょう。そうすればきっと、みんなが安心して生活できる生活が送れるようになると思います。

みなさんはこれまで、『真理』・『博愛』・『健康』・『貢献』の4つの視点、そして、『めざす生徒像』から『自立』に迫ろうと努力してきました。

『真理』は、『人から言われなくとも進んで学習し、真理の美しさを追求（究）する生徒』

『博愛』は、『人間としての生き方を追求し、思いやりの心をもって行動できる生徒』

『健康』は、『すべての命を大切に、共に健康で安全な生活環境の実現をめざす生徒』

『貢献』は、『社会のため、人のために役立ち、「生きる喜び」を味わえる生徒』です。

いじめアンケートの中に2つ、とても大切なことを書いてくれた人がいます。校長の胸に響きました。1つは「差別」、もう1つは「書いてもかわらないから書かない」というものでした。

差別は社会においてあってはならないことです。人権侵害です。辞書には、弱い立場にある人に侮蔑的な扱いをすることとあります。ケンカした2人の内1人だけを注意するというのは差別ではありません。それは対処法の間違いです。岩江中学校に差別が存在するとすればそれは大きな問題です。力の強い弱いや障がいの有無、肌の色で、人としての大切さ、かけがえのなさが左右されることは決してありません。人としてはみな同じです。それが『真理』です。人を見かけだけで判断したり、馬鹿にしたり、からかったりするの決してない岩江中学校を一緒につくっていくことが岩江中学校の課題です。

そのためにはどうすればいいのでしょうか。そのヒントが、もう一つの大切な言葉、「書いても何もかわらないから書かない」、「言っても仕方ないから言わない。」という言葉です。この言葉の背後にあるものは、あきらめではなく依存心です。自分は何もせず人に何かをしてもらいたいという気持ちです。学校で身につけなければならない力に、『生きる力』というものが、自ら課題を見つけ自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力です。よりよく問題を解決するためには、自ら問題に気づき、どうあればいいのかを考え、解決策を検討し、自ら行動することが肝心です。みなさんは大会で、「相手は強いから負けるのがわかっているから戦わない」と逃げ帰りますか。岩江中学校のみなさんは、問題をよりよく解決していく力を、行動することをとおして身につけていってほしいと願います。

そして、この2つの、「差別感をなくし、よりよく問題を解決する力を身につける」ためには、まずは、心を開き、「共に」語り合い、分かち合い、自分にできることは何かを考え、できることから少しずつ取り組んでいきましょう。そのお手伝いを先生方は必ずします。みんなが安心して生活できる学校づくりをめざすことで、先生方と「共に」成長してまいります。

これから37日間の夏休みが始まります。順調なときもあれば、うまくいかないときも当然あります。そんなときは学校に来て、「助けて。」「うまくいかないんだ。」「何とかしてくださいよ。」と遠慮せず相談してみてください。何度も繰り返しますが、そう言えることもまた勉強であり成長です。そうすれば必ず相手の人は応えてくれます。そうすることによって相談した方も、相談された方も、「共に」成長していけるのです。一人ひとりが、『ここら豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長していきましょう。みなさんは、決して一人ではありません。

平成27年度第1学期の終業式にあたり、これまでの反省から、これからの岩江中学校の課題やその解決策についてお話をしました。岩江中学校で学ぶすべてのみなさんが、「今日も楽しかった。」「一生懸命がんばった。」「岩江中学校でよかった。」と言えるよう、ここにいるみなさんが、それぞれの行動をおし、生きていく上でとても大切なことを身につけてくださるよう心からお祈りして、平成27年度第1学期終業式の式辞といたします。

子どもたちや先生方、保護者、地域のみなさんと共に、よりよい岩江中学校をつくってまいりたいと思います。第1学期、たいへんお世話になりました。夏休み、そして、第2学期もどうぞよろしくお祈りいたします。